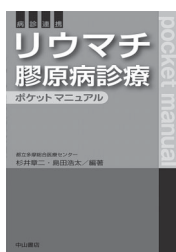


書評

[評者]

名郷直樹

武蔵国分寺公園クリニック



病診連携

リウマチ膠原病診療 ポケットマニュアル

杉井章二・島田浩太 編著

●ポケット判 200頁 2015年

定価：本体 3,800 円+税

[ISBN978-4-521-74093-5]中山書店刊

このポケットマニュアルの特徴は、そのコンセプトにある。多くのマニュアルは、読者としてその領域の専門医を志す医者を対象としている。リウマチ膠原病診療のマニュアルであれば、その初学者やレジデントが主な対象であろう。しかし本書のターゲットはそうではない。リウマチ膠原病を専門としない医者である。少し不思議な感じがするかもしれないが、その非専門医を対象としている点が本書の最大の特徴だろう。書評が私に回ってきたというのもおそらくそのコンセプトがあつてのことだろうと推測する。

このマニュアルの筆者が勤務する病院は、私のクリニックがいつもお世話になっている地域の中核病院である。そこから出されたマニュアルの「はじめに」に書かれてあることに衝撃を受ける。リウマチをもった患者が風邪をひいて近くのクリニックを受診したところ「うちでは診られない」と門前払いをされたというエピソードである。これは他人事ではない。私自身が今まさに向き合わないといけない問題である。

病院医師の激務と開業医ののんきさ、みたいな問題

は現実として実感している。だからこそ私自身も、のんきでばかりではいけない開業医の一人として、夜10時まで外来を開いたり、在宅医療を決して断らずに引き受けるというような部分で、何とか病院医師のバックアップをしようと考えていた。そして、多少はできているのではないかとうぬぼれてもいた。しかしそんな生易しいことではないのである。

本書を診察室において、リウマチ膠原病をもった患者が外来に来たら、決して断らないように、断らないだけでなく、適切に対応できるよう、日々の診療に使っていかなくてはならない、そう肝に銘じている。

本書はただのマニュアルではない。魂がこもっている。リウマチ膠原病診療のレベルアップのために、非専門医にこそリウマチ診療を勉強してもらい、専門医と連携しながら、医療界全体で連携を構築していかなくてはならないという、叫びにも似た魂が、本書の背景にある。本書を、リウマチ膠原病を専門としないすべての医者に、特に開業医に、強くお勧めする。私自身、心して本書と向き合いたい。